

大学図書館を活用した学習支援の試み ～Study Support Space の運営～

枝川恵理¹⁾、斉藤くるみ²⁾、佐々木奈三江³⁾、亀岡由佳³⁾、吉田 博⁴⁾

- 1) 徳島大学総合科学部 2) 徳島大学工学部
3) 徳島大学附属図書館 4) 徳島大学教育改革推進センター

1. はじめに

大学教育において、近年は学生の主体的な学修を促進することが強く叫ばれており、学修支援環境の整備も課題の1つとして挙げられる¹⁾。このような流れの中で、学習支援に大学図書館が貢献できる可能性が高まっている²⁾。その代表的な取り組みとして、学生の学習を支援するためのラーニング・コモンズを整備することが挙げられる。徳島大学においても、「自由にディスカッションしたり、コミュニケーションを図ったりしながら自主的・創造的に学習に取り組める場所」として、附属図書館本館1階にラーニング・コモンズを整備した。ラーニング・コモンズは、施設・設備と資料に加え、サービスも重要な構成要素であることが指摘されている³⁾。ラーニング・コモンズにおけるサービスの事例としては、数多く報告されており、枚挙にいとまがない。特に、人的なサービスとして、決められた時間に教員、または大学院生を常駐させ、学習に関する相談に対応する取り組みが、近年増加している傾向にある⁴⁾。徳島大学においても、2013年4月から、学生と図書館職員が協力して、学生の学習相談に対応する取り組みをスタートさせた。本発表は、教職員や大学院生の協力を得て行っている、学習相談を通して、学生の学習に対する取り組み方を改善することを目的に設置したStudy Support Space(以下、SSS)の報告である。

2. SSS の概要

SSSは、学生の学習に関する相談に対し、アドバイザー(教職員、大学院生)が対応する取り組みである。アドバイザーは、徳島大学附属図書館本館1階のピア・サポートルームにて、SSS時間

割(図1)に応じて待機し、相談に訪れた学生の相談に対応する。SSSの運営を行っているのは、学生と図書館職員で構成されたSSS企画チームであり、アドバイザーへの協力依頼、時間割の調整、相談内容の記録・分析、SSSの広報活動などを行っている。2013年11月1日現在で、学生3名、図書館職員2名が属しており、学内でピア・サポート活動を行う学生チーム「繋ぎ create⁵⁾」の中のチームとして活動している。SSS企画チームの活動理念は、「大学生の日々の学習における躓きに対して、学習支援を行うとともに、学習をするために必要な基本知識・技能を習得する場や機会を創ることで、大学生の学習スタイルの向上、改善を行う。」ことである。アドバイザーは、2013年11月1日現在で、教員12名、職員1名、大学院生2名であり、相談者の学部・学科・学年・対応した相談内容等を相談者管理シートに記載する。相談者管理シートは、SSS企画チームの学生が、データ化して管理している。

3. 2013年度前期の実績

2013年4月よりSSSの取り組みを開始し、授業実施期間中の平日は毎日実施している。そのうち、2013年度前期は79日間実施し、累計の相談者数は210名であった。学年別の相談者の割合は、図2の通りであり、1年生が全体の69%と半分以上を占めた。また、学部別の相談者の割合は、図3の通りとなり、工学部学生が56%、次いで総合科学部生が25%であり、SSSを設置してある常三島キャンパスの学生に利用が偏っている。次に、相談内容・科目別の相談者の割合は、図4の通りで、数学に関する質問が32%と最も多く、次いで物理学が26%であった。

4. まとめ

2013年度前期の実績より、相談者の約80%が1、2年生であり、相談内容として、数学・物理などの理系基礎科目に関する相談が半数以上を占めている。このことから、SSSは初年次の理系基礎科目の学習に関する相談に、対応する場として、活用されていることがわかる。課目以外の相談では、大学院入試、研究室に関する進路相談や、学習の仕方に関する相談が多かった。レポートの書き方に関する相談は、ほとんどが1年生であった。このことから、初年次学生にとって、大学における学習の仕方や将来に関する相談ができる場としても意義があったと考えられる。

一方で課題としては、相談がなかった英語について、その原因を分析する必要がある。また、相談者が利用しやすい環境づくりのために、学生のニーズに合わせたアドバイザーの確保・時間割の設定・科目配置を考慮することや、学部学生に近い立場である大学院生のアドバイザーを増やすことが必要である。さらに、問題の解き方を教えるだけにとどまらない、大学生の学習スタイルの向上・改善を目指した学習サポートが出来るように、運営を行っていかなければならない。そのためには、学生を対象としたニーズ調査やアドバイザーに対する調査を実施し、効果検証をより充実させることも必要である。

最後に、SSSは現在のところ、有志の学生と図書館職員によって運営されており、アドバイザーの教職員と大学院生には、ボランティアとして協力を依頼している。徳島大学における学生の学習支援を充実させるためには、盤石な運営体制を構築することも必要であろう。

SSS学習支援内容・アドバイザー (10・11月)

時間帯	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
14:30 ↓ 15:30	数学 大沼 正樹 先生		物理レポートの書き方 金西 計英 先生	物理レポートの書き方 斎藤 隆仁 先生	
16:00 ↓ 17:00	レポートの書き方 出口 桜子 さん	英語 宮田 政徳 先生	数学 大淵 朗 先生		心理レポートの書き方 野間 あずさ さん
17:00 ↓ 18:00	物理レポートの書き方 古屋 玲 先生	物理学・他 小山 晋之 先生	文献の探し方 佐々木奈三江 さん	英語・留学相談 福田 STEVE 先生	化学 森野 俊広 先生
18:00 ↓ 19:00	線形代数・勉強の仕方 吉田 博 先生	線形代数・勉強の仕方 吉田 博 先生	物理学 日浦 善郎 先生	基礎生物レポート増設 佐藤 高則 先生	線形代数・勉強の仕方 吉田 博 先生

※上記の時間割とは一部異なる場合があります。SSSを利用する場合は、以下のいずれかの方法で最新の情報をご確認ください。
 ・ピア・リソースルームの時刻表用紙を、徳島大学附属図書館ホームページ

図1 SSS時間割表 (10・11月)

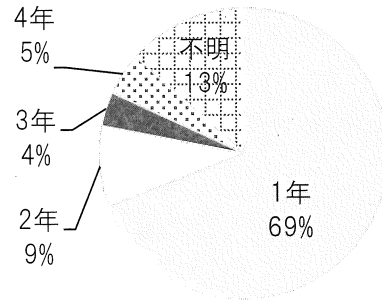


図2 学年別相談者の割合 (%)

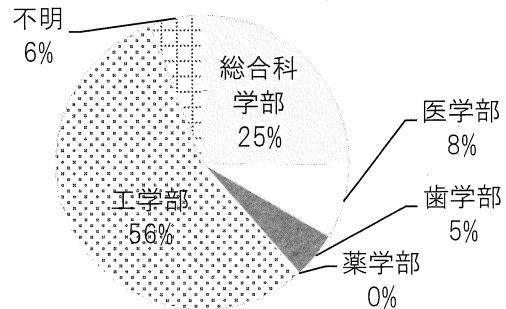


図3 学部別相談者の割合 (%)

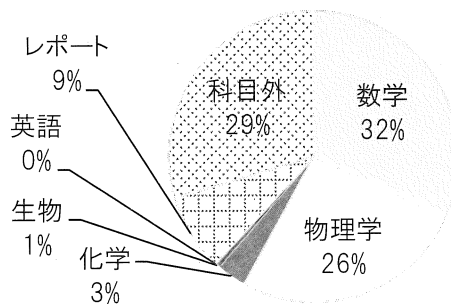


図4 相談内容・科目別相談者の割合 (%)

参考文献

- 1) 文部科学省：新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて，2012.
- 2) 長澤多代：大学教育における教員と図書館の連携を促すカスタマイズ型の学習支援，日本図書館情報学会誌，58，4，185-201，2012.
- 3) 米澤 誠：ラーニングコモンズの本質，名古屋大学附属図書館研究年報，7，35-45，2008.
- 4) ふじたまさえ：学生と図書館の協働事例まとめ，ラーコモラボ通信，16，2012.
<http://archive.mag2.com/0001260410/20121126142822000.html> (2013. 11. 11.)
- 5) 吉田 博：学生が参画する教育改善・学生支援活動の効果検証に関する一考察，大学教育研究ジャーナル，10，9-20，2013.